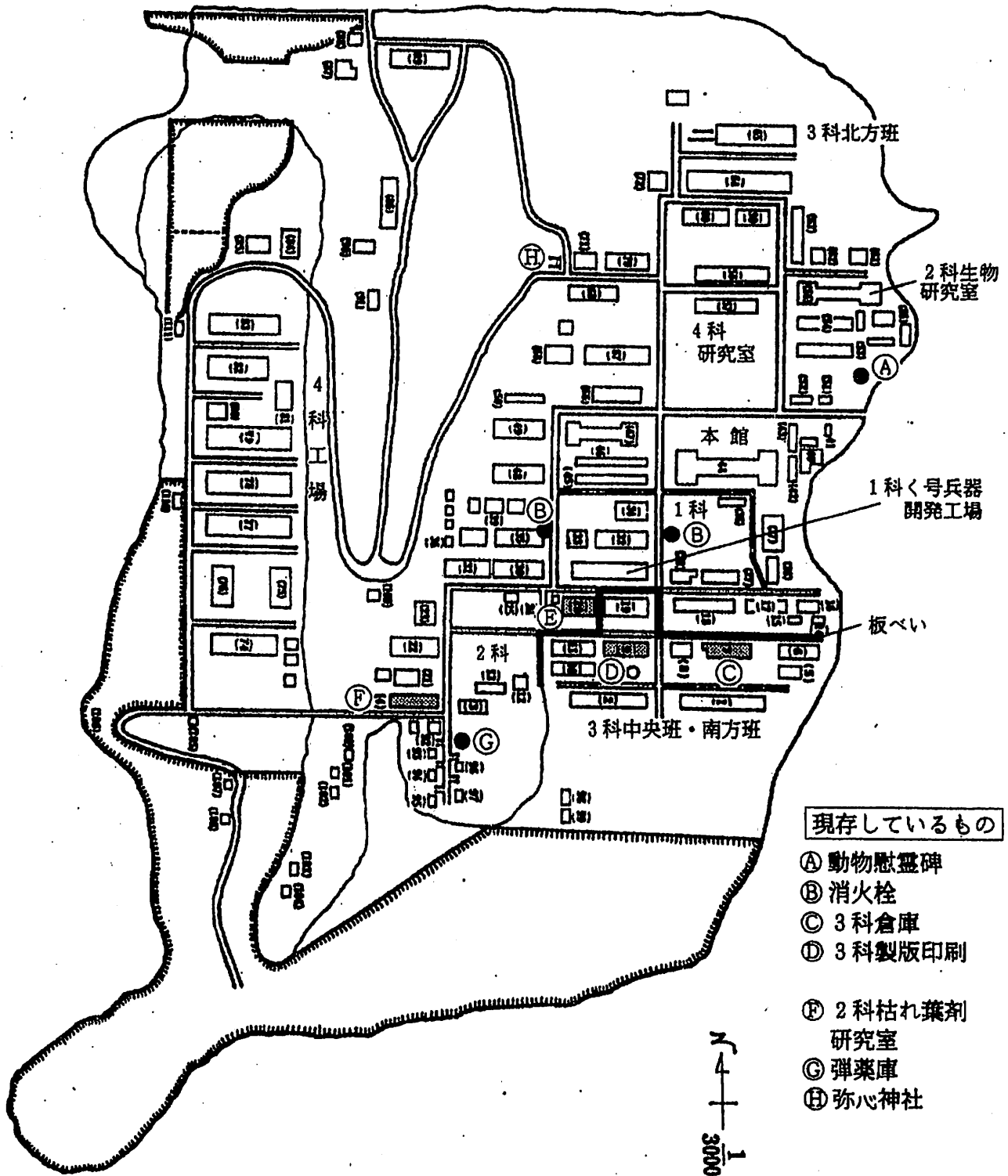


←至 東生田 (現続売ランド) 小田急線 →至 稲田登戸 (現向ヶ丘遊園)



陸軍登戸研究所の建物配置図(昭和19年)
 現在、明治大学生田校舎となっているが、図中に示したように、登戸研究所時代の施設が今も残っている。(原図は『川崎市多摩農業協同組合史』より。渡辺賢二氏作成)

陸軍登戸研究所の人員

(1945(昭和 20)年)

武官 (技術将校) 135名

中将1、少将1、大佐3、少佐22、
大尉32、中尉36、少尉40

武官 (下士官) 54名

准尉9、曹長17、軍曹20、伍長8

文官 (高等官) 6名

文官 (技手) 55名

雇員・工員 610名

計860名

注) この数は長野に疎開後の数なので、登戸に研究所があったころは1000名前後の人が働いていた。その当時はなかなか良い就職先の一つであったらしい。

陸軍登戸研究所の概要

総務科 研究所の運営に関する総務全般

第一科 物理関係全般。謀者用無線通信機、無線探査機材、電話盗聴器、怪力光線、風船爆弾

第二科 化学関係全般。秘密インキ、謀者用秘密カメラ、毒薬、細菌、特殊爆弾、時限信管

第三科 経済謀略資材、印刷関係の調査・研究及び製造、紙幣・書類・パスポート・各種証明書の偽造

第四科 第一、第二科が研究開発した器材を実用化するための最終実験及び製造工場の管理・運営